

(事後評価)

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）

(実施期間：令和元～2年度)

代表機関：情報・システム研究機構（総括責任者：藤井 良一）

共同実施機関：人間文化研究機構

課題概要

申請機関はこれまで、女性研究者の採用・上位職昇進のプロセスの透明化、女性研究者の育成・輩出に関わる数値目標と施策のバランス等世界的視野で課題解決の方策を探り、法人内のダイバーシティ研究環境の実現に向けた施策を実施してきた。

本申請ではその成果を発展させ、成功事例と評価される、英国独自の認定制度（アテナ・スワソン）を軸に、アジア諸国を含めた日本との比較分析に取り組む。主な調査項目は、アテナ・スワソンの英国内外への制度拡大と日本の構造的問題点の原因追求、また、女性研究者比率が高いアジア諸国を中心に、事前の情報収集と現地訪問による関係者ヒアリングで、施策とその導入手法を探ることである。

これらにより、ダイバーシティ研究環境の実現を牽引する要因、阻害する要因を突き止め、第5期科学技術基本計画に掲げられた数値目標の達成に資する、日本独自のジェンダー推進のための評価指標の設定と評価方式の提案を行う。

(1) 評価結果

総合評価	計画達成度	取組	取組の成果	実施体制
C	c	c	c	c

総合評価：C（総じて所期の計画以下の取組である）

(2) 評価コメント

本事業は、わが国の女性研究者の活躍促進に係る施策をより発展させるべく、英国周辺地域へ高い波及効果を及ぼしている英国の認定制度（アテナ・スワソン）とその運用方法、また、女性研究者比率の高いアジア諸国における施策とその運用方法について調査を行い、女性研究者の活躍促進に資する我が国独自の評価指標の策定と評価方式の提案を行うものであった。代表機関ならではの大量データの解析技術や社会調査の企画実施、共同実施機関の強みを活かした人文学的見地からの国際的比較分析を期待したが、組織として責任ある実施体制が構築されず、連携する2機関の特性を活かした所期の計画に沿った調査分析が十分に実施されなかった。また、調査分析結果を基に提案された評価指標及び評価方式は、これまで国内の機関で活用されてきた既存のものを越える内容ではなく、我が国における国・研究教育機関等のレベルでの積極的な活用が期待できるものとなっていない。今後は、限定的ではあるものの、本プロジェクトで海外の大学・研究機関等から得られた知見を全国の機関へ発信することを期待する。

- ・ **計画達成度**：英国での現地調査、英国と豪州の機関を対象としたオンライン会議やアンケート調査を実施し、評価指標として「アセスメントリスト」を策定するとともに、評価方式の検討を行った。しかしながら、連携する2機関の女性研究者に係る調査が実施されておらず、その

分析結果を踏まえた海外取組事例の調査・分析計画となっていない。また、アジア諸国における調査を実施しておらず、評価方式の検討も不十分であり、所期の計画を達成したとは言えない。

- **取組**：アテナ・スワンについて現地調査を行い、また、英国と豪州の機関を対象としたオンライン会議による情報収集やアンケート調査を実施し、評価指標として「アセスメントリスト」を策定した。しかしながら、連携する2機関の女性研究者に係る調査が実施できなかったことから、その分析結果を踏まえた効率的な海外取組事例の調査・分析となっておらず、アジア諸国における調査も全く実施できていない。アンケート調査も回収率が極端に低く、取組全体として妥当とは言い難い。
- **取組の成果**：評価指標として「アセスメントリスト」を策定したものの、我が国における国・研究教育機関等のレベルで積極的に活用され得るものとは言い難い。提案された評価方式についても、これまでに明らかにされていた内容を越えるものではなく、海外の大学・研究機関等を対象とした調査・分析結果を踏まえなければ提案できない内容とはなっておらず、取組の成果としては不十分である。
- **実施体制**：2機関の機構長直下に、担当理事や外部有識者から成る「運営委員会」、その下に「タスクフォース」を設置し事業を進めた。しかしながら、代表機関と共同実施機関の役割分担、連携が明瞭でなく、それぞれの機関が組織として本事業に取り組む責任ある体制が構築できず、2機関の強みとして期待された、ビッグデータの解析技術力、社会調査の企画実施力、国際的比較分析力が十分発揮されなかった。